



「気象庁の運動会が雨で延期されたそうでございます」・・・落語家の桂枝雀は、天気予報が外れるとこう言って気象庁を皮肉ったといひます。気象予報士が聞いていたら、苦笑いしたことでしょう。

「秋の空は七度（ななたび）半変わる」といわれます。秋の空もようがコロコロ変わることの例えのようです。このところ天気目まぐるしい変化はありませんが、この先は冷氣におおわれる日も増えてきそうで、明日の朝はこの秋いちばんの冷え込みとか・・・刻一刻と変化する秋の空と気温、服装でうまく調節してほしいものです。

ここ数日は雨男の登場もなく、空は青く澄みわたりすがすがしい季節です。半袖ではちょっと寒いぐらいのこの季節は空気まで引きしまっていて、「スポーツの秋」「読書の秋」「芸術の秋」「食欲の秋」など、何をするにもベストな季節です。

さて、10月1日は「中秋の名月」でした。「中秋の名月」とは旧暦8月15日の夜の月のこと。この日の夜は雲もほとんどなく、天高く上った名月はこうこうと輝いていました。ふだん月など見ることもない生活ですが、中秋の・・・といわれると見上げてみたくなるものです。そんなことを考えていたら、友人から写真が送られてきました。この日の「名月」を写真に撮って送ってくれたのです。さすが写真家です。みごとにまでの月が写っていました。そして家に帰れば、ススキが飾ってありました。中秋の名月とススキ、これ以上ない最高の組み合わせを見てホッとひと息つけたように思いました。

10月になってキンモクセイの甘いにおいも濃くなってきました。こんな季節にこそ、「みのるほど頭を垂れる 稲穂かな」と生きたいものですね。